

# 日本列島の出現は 大地の鼓動を感じる 壮大なドラマ。

フォッサマグナミュージアムは地球の誕生からさまざまな鉱物、フォッサマグナ、ヒスイ、そしてフォッサマグナの発見者ナウマン博士の資料などを展示しています。



■黄鉄鉱(スペイン)  
金色に輝くサイコロのような六面体の結晶です。



■あられ石  
あられ石の標本として第一級のものです。



■シーラカンス(ブラジル)  
中生代白亜紀のシーラカンスの化石。アフリカで発見されるまで白亜紀以降滅びたと考えられていました。



■焼山の火砕流堆積物  
活火山として知られている焼山。平安時代に焼山から噴出した火砕流を特殊な技法でそのまま展示しました。



■日本地質学の父 ナウマン博士  
フォッサマグナの発見者ナウマンの生涯を紹介したドイツの家のような展示コーナーです。



■魅惑の化石  
日本国内や世界の色々な化石が時代別に展示されています。日本の名前がついた奇妙な形のアンモナイトのニッポニテスは必見です。



■ウィーヘルト型地震計  
約70年前に製造された日本で2台しかない地震計です。



■サヌカイトの石琴  
石の音とは思えない音色で、糸魚川にゆかりのある相馬御風の「春よこい」などの名曲を奏でます。



■ウンコの化石(アメリカ)  
中生代白亜紀の草食性の恐竜のウンコ化石です。

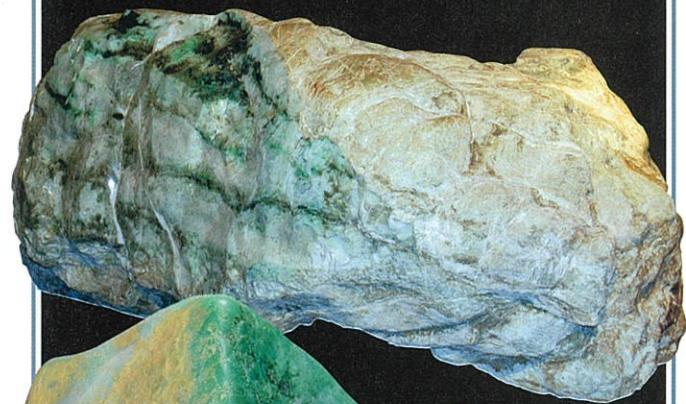


■小滝川ヒスイ峡  
日本で最初にヒスイが発見されたヒスイの産地です。清流の中にヒスイの原石を見ることができます。(ヒスイの採取はできません。)

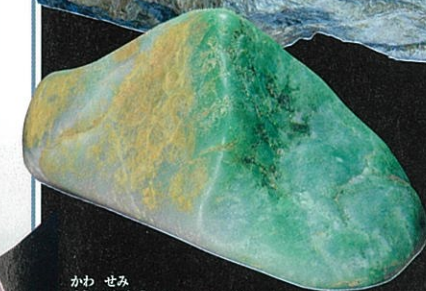
糸魚川地域は日本最大のヒスイ産地で、縄文時代前期から始まるヒスイ文化は世界最古のヒスイ文化であり、日本人と宝石の最初の出逢いでした。  
糸魚川のヒスイは日本全国に広がり、人々のかかわり、宝石としての質と量、どれをとっても日本の代表的宝石といえます。

# 神秘

## 世界最古の ヒスイ文化



■ヒスイ原石  
重さ4.6tのヒスイ原石です。ヒスイの色には、白、緑、紫、青、黒などの色があります。



### かわせみ 翡翠とヒスイ

ヒスイは漢字で翡翠と書きます。また、カワセミとも読みます。なぜ、鳥の名前が石につけられたのでしょうか？  
カワセミは背中が緑、腹が赤色をしています。カワセミの背と腹に似ていることから翡翠玉と名づけられ、いつしか玉が取れて翡翠と呼ばれるようになりました。赤いヒスイはマンマーで見られます。



- 1 プロローグ / ヒスイ峡
- 2 第1展示室 / 魅惑のヒスイ
- 3 第2展示室 / 糸魚川大陸時代
- 4 第3展示室 / 誕生日本列島 フォッサマグナシアター
- 5 第4展示室 / 変わりゆく大地
- 6 第5展示室 / 魅惑の化石
- 7 第6展示室 / 魅惑の鉱物
- 8 石の庭
- 9 休憩コーナー
- 10 ショップ
- 11 ホール
- 12 研修室兼企画展示室
- 13 ジオパーク情報コーナー

### フォッサマグナミュージアム 案内図

